



key point

ミクロ経済学の全体構造を把握する。

経済学

ミクロ経済学

ミクロ経済学の攻略法

まず、学習を始める前に最も重要なことは、これから始める勉強の最終ゴール地点を見つけること。

そして、経済学者になるためではなく、試験科目としての「経済学」を受験するために、必要な部分だけを要約して学習し、余計なことに時間をかけないこと。



ミクロ経済学の全体構造

上図を参照すると、ミクロ経済学の出題範囲をマスターするために、計6つの部屋があり、それぞれをクリアして、最終ゴール地点を目指すことになる。

入場口は2ヶ所あり、

- 1 消費者行動（入口）
- 2 生産者行動（入口）
- 3 生産物市場
- 4 生産要素市場
- 5 市場機構
- 6 市場の失敗

という順路になっている。

ミクロ経済学

（微視的経済理論）
経済学は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大分され、ミクロ経済学では、家計、企業の合理的行動、相互作用による価格理論を通じて最適な資源配分について学習する。

試験対策用の経済学

公務員試験、公認会計士試験、不動産鑑定士試験、中小企業診断士試験など資格試験はもとより、就職試験などにおいて経済学を突破することは非常に有用である。

しかし、ミクロ経済学、マクロ経済学を「体系的」に学ぶことによって個別の論点が数珠つなぎとなって、学ぶ式に短期間でマスターすることが可能になることから、かえって得意科目として位置付ける受験生もいる。

決定論

経済学の考える方向性



実際の経済に「あてはめ」を行う。

決定論

経済学は、単純な仮定よりモデルを抽出し、一定の法則を導き出さなければならない。